

総務文教委員会管外行政調査結果報告

1. 日 時 令和4年10月24日(月)～10月25日(火)(2日間)
2. 行 先 ① 1日目 静岡県 牧之原市役所 相良庁舎
② 2日目 静波サーフスタジアム(牧之原市静波 2220)
3. 目 的 ・静波サーフスタジアムについて
・現地視察
4. 参加者 委員長 二 瓶 貴 博
委 員 吉 田 佳代子 委 員 山 敷 恵
委 員 印 丸 裕 久 委 員 松 本 善 弘
委 員 森 博 英
理 事 者 神 林 孝 幸 (政策推進部次長兼総合政策課課長)
理 事 者 足 立 和 哉 (政策推進部総合政策課課長代理)
事 務 局 松 下 智 美 (議会事務局総務課議事係主任)

上記調査事項について、別添のとおり報告いたします。

令和4年11月 日

高石市議会

議長 森 博 英 様

総務文教委員会

委員長 二 瓶 貴 博

令和4年度 総務文教委員会管外行政調査（調査内容の概要）

【開催日時】 令和4年10月24日（月） 午後1時30分～午後3時30分

【開催場所】 静岡県牧之原市役所 相良庁舎 4階大会議室

- 【流れ】
1. 牧之原市議会 植田議長より挨拶
 2. 高石市議会 総務文教委員会 二瓶委員長より挨拶
 3. 牧之原市役所 産業経済部より調査事項の説明
 4. 質疑応答
 5. 高石市議会 森議長よりお礼の挨拶

調査事項報告

静岡県牧之原市

1. 事業開始の理由及び経緯

理由① 15kmの海岸線があり、元々サーフィンの盛んな土地柄という背景がある。

複数のサーフポイントが存在（静波、鹿島、片浜、須々木など）し、メジャーポイントである静波は、700台収容の無料駐車場及びトイレも5ヶ所完備しており、（一社）日本サーフィン連盟、（一社）日本プロサーフィン連盟の大会が数多く開催されている。なお、野球やサッカーなどのスポーツ用品店が市内2店舗に対して、サーフボードメーカーを含めたサーフショップは市内18店舗、静波エリアには12店舗ある。

理由② サーフィン競技が東京五輪追加種目に決定した。

ア) 経過

国際サーフィン連盟（ISA）が東京五輪追加種目に申請

2015. 9 組織委員会がIOCに追加種目提案

10 市長が地元サーフィン関連事業者にウェイブプール建設を要請

12 静岡県知事に会場誘致の協力要請

2016. 3 ウェイブプール構想を公表

8 IOCがサーフィン競技を追加種目として決定

12 会場が千葉県一宮町に決定

→ウェイブプール構想はサブ会場及び事前合宿地として継続

2017. 3 牧之原市沿岸部活性化計画を策定

→ウェイブプールを沿岸部の賑わい拠点として位置づける

6 事業主体及び事業用地の選定を本格的に検討始める。

10 ウェイブプール構想を断念

→理由：事業主体、事業の採算性に課題多数

2018 事業見直し等検討＝構想の再浮上

→造波装置の進化（新メーカーの参入、用地のコンパクト化）

2019. 3 建設から運営までの新会社（Surf Stadium Japan 株式会社）を設立する。

4 開発に伴う許認可申請手続き開始

12 ウェイブプール計画を公表

2020. 1 ウェイブプール許認可が完了

2 工事に着手

3 東京2020五輪の1年延期が決定

→世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、米国製造波装置及び技術者入国遅延

2021. 7 完成（暫定稼働）

→ 波乗り JAPAN 練習（2日間）

県知事を招いてのオープニングセレモニーを開催

アメリカンチーム五輪事前合宿（4日間）

8 開業（営業開始）

2022. 3 第3回ジャパンオープンオブサーフィンが開催（サーフィンの日本一を決める祭典）

4 スポーツ庁のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設として新規指定
市内公立高校のサーフィンサークルが活動開始

7 静波パラサーフィンフェスタが開催

11 東京五輪金メダリスト Carissa Moore 選手が来訪予定

2. 事業者、事業方式、事業内容について

- ・事業者：Surf Stadium Japan 株式会社
- ・事業方式：民間事業
- ・事業内容：静波サーフスタジアム運営

3. 総工費及び予算内訳

- ・総工費：非公表

4. 立地環境、敷地面積

- ・立地環境：静岡県立自然公園区域、湾岸法に基づく臨港地区
- ・敷地面積：1.6 ha（駐車場込み）

5. 土地の所有者、土地利用についての契約について

- ・一部取得及び賃貸

6. 工事内容及び工期について

- ・工事内容：若干の盛土により整地
- ・工期：令和2年2月から令和3年7月（当初の計画では令和2年9月完成予定）

7. 利用水の種類、調達方法、後処理について

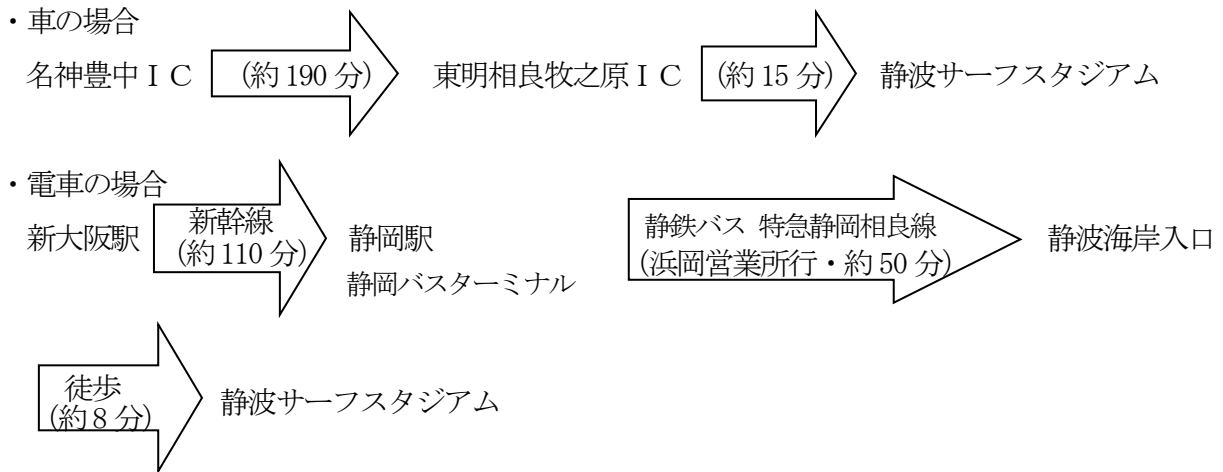
- ・利用水：地下水（大井川の伏流水）を活用（海水は造波装置への負担が大きいため）

8. 波の種類、波を起こすシステムについて

- ・American Wave Machine 社 PerfectSwell240 型

⇒米国サーフィンナショナルチームの指定練習場である「BSRリゾート」で使用中の装置と同仕様

9. 施設へのアクセス（大阪方面から）



10. 運営状況（稼働率等）

- ・ 7月－8月 95%程度
- ・ 9月 85%程度

※上記以外の月については、気温の低下に伴い下落

11. 利用者の年齢層及び利用者の居住地について

- ・ 年 齢 層：中高年中心
- ・ 居 住 地：東京都、神奈川県、千葉県在住者

12. 季節及び時間別利用状況

- ・ 季 節：夏ピーク、冬閑散
- ・ 時 間：祝日及び週末はすべて稼働高いが、平日の朝晩やや低い

13. プール以外の付帯施設

- ・ ハワイアンレストラン（食事だけの利用も可能）

14. 現在までの行政との関わりの経緯

- ・ 建設に至るまでの行政手続きの助言及び指導などを支援
- ・ 地域総合整備資金貸付制度（ふるさと融資）の活用
融 資 額：5億円
貸付利息：無利子（利息は市が負担するが、その内3/4は交付税で補填される）
- ・ 行政関係の視察受け入れ（47団体の対応）

- ・民間の視察受け入れ多数

15. 今後の運営について

- ・集客拡大戦略を展開中

16. 質疑応答

- ・牧之原市沿岸部活性化計画を立案したのはどこの部署か（山敷委員）

⇒ 産業経済部で立案した。

- ・事業主体が民間事業者になった理由（山敷委員）

⇒ S P C（特別目的会社）設立を模索したが、事業の採算性に課題が多く断念した。その後、行政がなるべく出資しない方法を模索し、民間事業者が事業主体となることで落ち着いた。

- ・県立高校のサーフィンサークルの費用負担は誰がしているのか（山敷委員）

⇒ サーフスタジアムが地元貢献の一環として特別に格安料金を設定してくれた。また生徒も夏にサーフスタジアムでライフガードとしてアルバイトをし、さらに県の教育委員会の予算（外部顧問）も活用することで、生徒の費用負担無しを実現している。

- ・牧之原市外からサーフスタジアムへ来る方々の市への貢献度はどれくらいあるのか（松本委員）

⇒ 現状はサーフスタジアムへ来た後そのまま帰る人が多いため、沿岸部を中心に賑わいを創出し市内での消費を促す仕組み作りをすることが課題となっている。ただ、周囲が開発等の規制が厳しい県立自然公園であるため、市として規制緩和の働きかけもして行く必要があると考えている。また、コロナが完全に収束していないためサーフスタジアムも17時で営業終了しているが、本来は21時までの営業（夏場のみ）を想定しており、コロナ収束後は飲食及び宿泊での市内消費も増えると考えている。

- ・サーフィンを体験したり教えてもらったりすることが出来る場はあるのか（吉田委員）

⇒ サーフスタジアムでは週末に体験教室を開催しており、また、静波に12店舗あるサーフショップでもサーフィンスクールを実施し生徒を受け入れている。

- ・地元商工会との協力等はないのか（印丸委員）

⇒ この事業について商工会との直接的な関わりはないので、今後互いに協力していくことが出来ればと考えている。

- ・サーフスタジアムに対する地元住民の反応はどうか（印丸委員）

⇒ 基本的には開発に対する地域の同意はいただいている。ただ、日中を自宅で過ごす高齢者が多

く、近隣住民からは、音楽・歓声等の騒音についてお叱りを受けることがある。

・人工造波プールに対するサーファーからの評価はどうなっているか（神林次長）

⇒ サーファーからは高く評価されており、実際にリピーターも多い。

1人8,800円/時間の料金で8本～9本と効率的に、また左右どちら向きの造波も可能なので、自身の苦手な向きを重点的に練習することができる。さらに、サーフスタジアムでは高さ、強さ、速さの組み合わせにより約80種類の波を起こすことができ、初心者からプロまで対応可能。

17. まとめ

牧之原市で人工造波プールの建設機運を高めることができたのは、元々サーフィンの盛んな土地で受け入れ易い土壌があったことに加え、サーフィンが東京五輪の新たな種目に決まったことが大きい。市が出資することはハードルが高く断念せざるをえなかったが、行政手続きの助言及び指導などの間接的支援を通じて民間事業者と連携したことなど勉強になる説明を聞くことが出来た。

事業の採算性を考えると、初期投資をなるべく抑えることに加え、完成した後も水道光熱費等のランニングコストをいかに賄うのが重要になる。また、1つの集客拠点を造るだけでは、周辺施設への波及効果は乏しく地域活性化には繋がりにくいので、市内での消費を促す仕掛けをつくることも同時に必要になってくる。出資者の確保とともに、それら課題解決の工夫が、成否の鍵となってくることを強く感じさせる内容であった。